

主な事業の進捗状況について

第2章 復旧・復興の基本施策

1 安らぎのある暮らしの再建

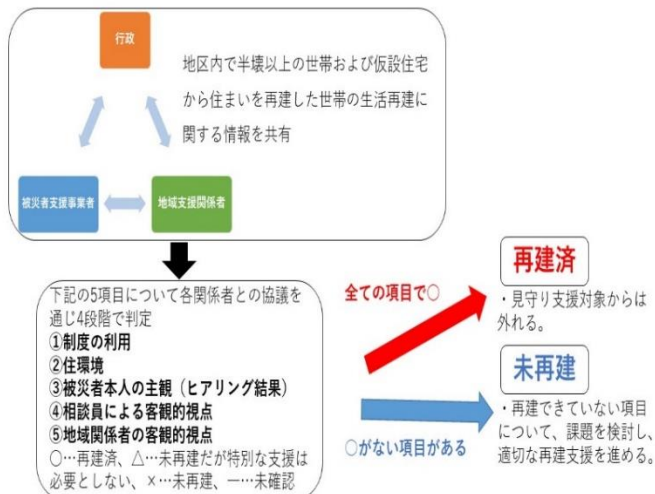
(1)被災者の生活再建の確保(9/48 ページ)

・生活再建が完了した被災者 **18.8%**(R2 実績)

訪問や電話での聞き取り等を通して、ひとりひとりの現況把握に努め、地域の方や、被災者支援事業者と連携し、生活再建に向けての見守り、サポートを行っています。

令和3年9月末時点での生活再建割合は **31.9%**となっています。

地区被災者支援会議の概要～地区被災者の支援に向けて～



(3)地域コミュニティの活性化(12/48 ページ)

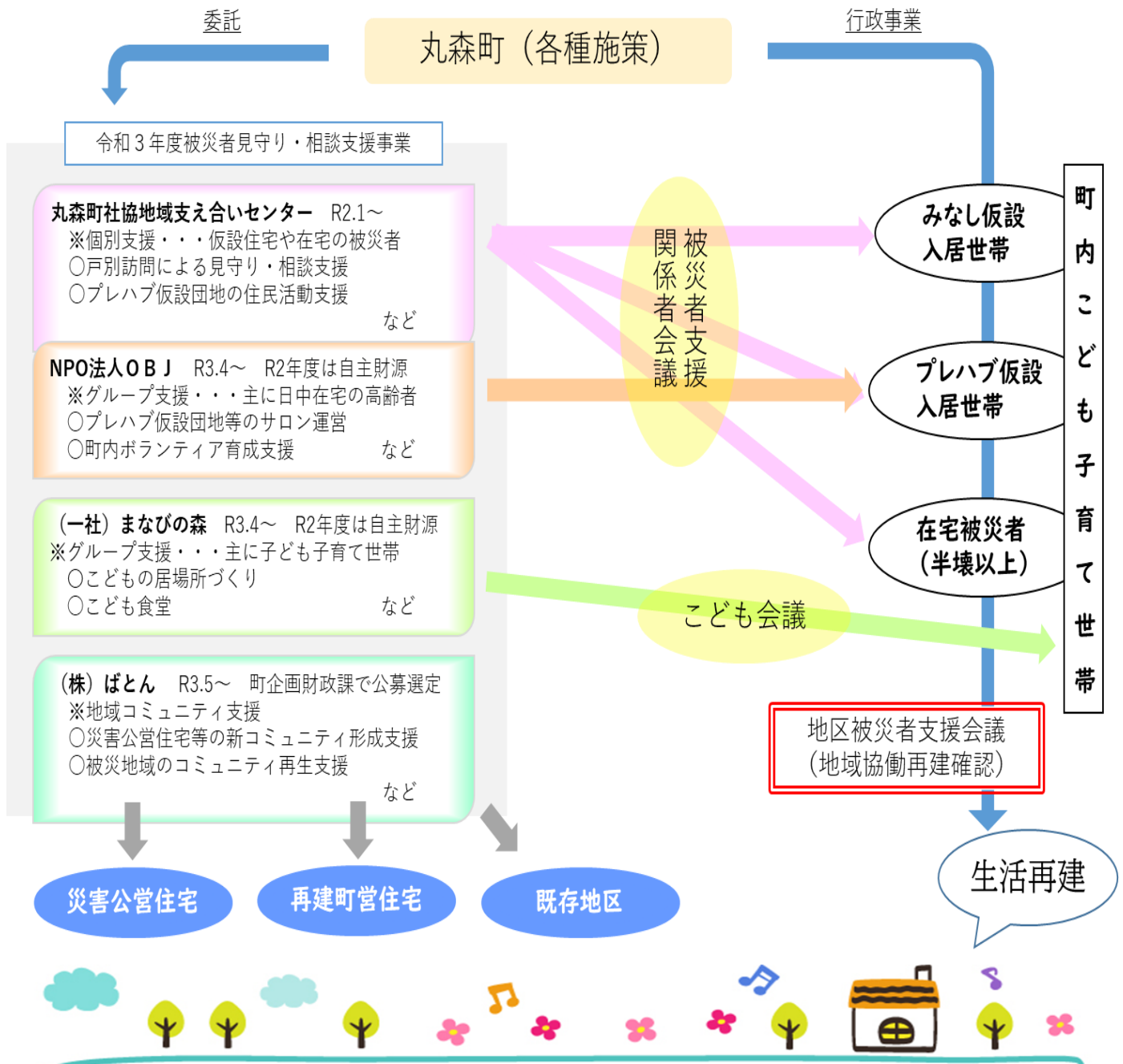
・仮設住宅団地内のコミュニティづくり活動実施件数 **462件**(R2 実績)

プレハブ仮設住宅の住民間の交流促進のためサロンの運営を業務委託しています。

現在は各団地の代表世話人や協力員を中心にコミュニティ運営が円滑に行われているため、さらに住民同士の支え合いが恒久的再建場所でも継続できるように入居者同士のつながりを深めるような取り組みを支援していきます。



被災者支援フロー図



2 災害に強く魅力あふれるまちの創造

(4)道路・橋梁等の復旧・機能強化(27/48 ページ)

・町が実施する道路・橋梁の復旧事業進捗率 **5%** 着工率 37%(R2 実績)

令和3年10月8日時点で進捗率 **8.1%**、着工率 **100%**となっています。

・町道石倉線(丸森字石倉)

着工前

完成



・町道竹ノ内線(大内字西向中)

着工前

完成



(5)河川の復旧・被害を繰り返さないための治水(28/48 ページ)

・町が実施する河川の復旧事業進捗率 **4%** 着工率 32%(R2 実績)

令和3年10月8日時点で進捗率 **4%**、着工率 **100%**となっています。

・黒佐野川(大内字南平)

着工前

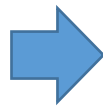


完成



・奈良又川(大内字東福田)

着工前



完成



(7)治山による安全・安心の確保 (30/48 ページ)

- ・町が実施する山地災害箇所の復旧事業進捗率 **0%** 着工率 **82%**(R2 実績)

令和3年10月8日時点で進捗率 **58.8%**、着工率 **100%**となっています。

- ・大内字佐野下1

着工前

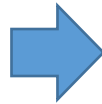


完成



- ・大内字佐野下2

着工前



完成



3 活気あふれる産業・なりわいの再建

(1)魅力あふれる農業の再興 (34/48 ページ)

・町が実施する農地・農業用施設の復旧事業進捗率 **6%** 着工率 15%(R2 実績)

令和3年10月8日時点で進捗率 **6%**、着工率 **92.9%**となっています。

・大内字東福田農業用水路

着工前



完成



・大内字黒佐野農地

着工前



完成(堆積土砂撤去)



(2)競争力のある畜産業の創造(37/48 ページ)

・乳用牛（搾乳牛）飼養頭数（頭）**1,046 頭**（R2 実績）

・肉用牛（繁殖牛）飼養頭数（頭）**297 頭**(R2 実績)

令和3年5月に子牛育成センターが完成しました。

本施設は肉用牛及び乳用牛の子牛を生後約15ヶ月まで預かり、育成するための施設で、町内畜産農家の負担を軽減することで規模拡大を促し、農家所得の向上に繋げることを目的としています。



子牛育成センター



子牛育成センター竣工式の様子

(3)活力のある林業の再生(38/48 ページ)

・林道の復旧事業進捗率 **0%** 着工率 **40%**(R2 実績)

令和3年10月8日時点で進捗率 **0%**、着工率 **100%**となっています



西畑線(館矢間山田)復旧工事の様子



市子沢線(館矢間松掛)復旧工事の様子

(5)国内外からの観光客の誘致 (40/48 ページ)

・観光交流人口約 369,000 人(R2 実績)

令和2年度に観光施設の復旧工事は完了しました。

令和元年東日本台風や新型コロナウイルス等により減少した観光交流人口を発災前以上とすることを目標に、本町が誇る自然や地域資源を活用した国内外からの観光客の誘致に取り組めます。

あぶくま荘



館内を改装し、令和3年7月にリニューアルオープン

斎理屋敷



指定管理業者が GM7 となり、令和3年6月にグランドオープン

不動尊公園キャンプ場



被災したコテージの復旧後の様子



キャンプ場の芝生整備後の様子

第3章 復旧・復興重点プロジェクト

1. 町産材を活用した災害公営住宅整備・町営住宅再建プロジェクト(44/48 ページ)

令和2年10月に町内9事業者と丸森町森林組合により、「一般社団法人丸森町復興住宅建設協議会」が設立されました。

災害公営住宅、町営住宅建設における町産材の活用について、協議会及び町と県で調整を行った結果、住宅建設に必要な木材量約5,500 m³のうち50パーセント以上に町産材を使用するための供給フローが県より示されました。

令和3年4月から丸森町森林組合により町産材の切り出しを実施しており、10月末に必要な木材の切り出しが完了する予定です。



丸森字小塚地区町産材切り出しの様子



大内字黒佐野地区町産材切り出しの様子



竹谷住宅建設中の様子



災害公営住宅建設中の様子

2. 安全・安心の拠点形成プロジェクト(45/48 ページ)

阿武隈川の災害被害を最小限とするため、災害時の水防活動、緊急復旧を行うための拠点として、河川防災ステーションの設置が予定されています。

河川防災ステーションは、土砂やコンクリートブロック等、緊急用資材の事前備蓄といった災害時における緊急復旧の拠点としての機能のほか、平常時には地域の人々の交流や憩いの場として活用される施設です。

現在は、令和6年度までの完成を目指し、用地取得のための地権者との協議に向けて調整を進めています。



<災害時>

- 被災箇所の復旧工事のための材料備蓄として活用
- 排水ポンプ車など災害対策車輛、防災ヘリの拠点
- 水防活動の拠点(水防団)



<平常時>

- 地域のコミュニティースペース
- 水防活動の訓練などに利用
- 防災学習の場や川の情報発信拠点



3. 「儲ける農業」創造プロジェクト(47/48 ページ)

竹谷地区

竹谷地区は、令和3年7月に農地復旧が完了しました。

農地復旧後の基盤整備に向け、竹谷地区基盤整備推進委員会において「丸森町竹谷地区農村地域活性化ビジョン」を策定し、令和3年7月に県への受託申請を行いました。今後は、令和4年度中を目標として集落営農の組織化・法人化のための担い手の育成を進めていきます。

竹谷地区農地復旧後の様子



羽入地区

羽入地区は、令和3年5月に農地復旧が完了しました。

農地復旧後の基盤整備に向けた第一歩として、令和2年6月に「新町羽入保全会」が設立され、多面的機能支払交付金事業による農地の保全活動を進めてきました。令和3年8月に羽入地区のみで基盤整備を進めることが結論づけられ、同月に羽入地区基盤整備推進委員会が設立され、令和4年7月に県への受託申込に向けた手続きを行っていきます。また、基盤整備事業とあわせて集落営農の組織化・法人化に向けた担い手の育成も進めていきます。

羽入地区農地復旧後の様子

